

代表者会議【当日資料 2－3】
茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和 6 年度 第 2 回 相談支援部会
日 時	令和 6 年 9 月 9 日（月）10:00～12:00
場 所	茅ヶ崎市役所 分庁舎 5 階 F 会議室
事 務 局	ちがさき基幹相談支援センターナル
出 席 者	<p>（委員）</p> <p>■栢沼 玲也 委員（茅ヶ崎市社会福祉協議会 障害者生活支援センター）※部会長 ■上杉 桂子 委員（茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会）※副部会長 ■岩崎 優佳 委員（茅ヶ崎市障がい福祉課） □加藤 郁子 委員（社会福祉法人翔の会 生活相談室とれいん） ■鈴木 博太 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会） ■高田 麗 委員（茅ヶ崎市地域包括支援センター社会福祉士部会） ■竹内 智洋 委員（社会福祉法人碧 地域生活支援センター元町の家）※佐藤右輔氏代理出席 ■棚橋 利恵 委員（社会福祉事業団 相談支援センターつみき） ■野口 新平 委員（特定非営利活動法人茅ヶ崎市障害者施設連絡会） ■藤本 美佳 委員（神奈川県立茅ヶ崎支援学校） ■吉岡 真紀 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>（オブザーバー）</p> <p>■柴田 勝一 氏（茅ヶ崎市自立支援協議会代表） ■大八木 元 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課） ■荒井 優広 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課） ■渡邊 桃子 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課） ■鈴木 敦之 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>（事務局）</p> <p>■瀬川 直人（ちがさき基幹相談支援センターナル） ■鐘ヶ江 麻里子（ちがさき基幹相談支援センターナル）</p> <p style="text-align: right;">（■：出席、□：欠席）</p>
議 題	1. 相談支援事業課題共有及び整理 2. 相談支援の課題解決に向けた意見交換
検 討 内 容	<p>1. <u>相談支援事業課題共有及び整理</u></p> <p>事務局より「基幹相談支援センターグランドデザインプロジェクト」にて検討された課題の共有、役割整理、アンケート調査、各団体へのヒアリング等の説明を行った。合わせて、「資料 1:相談支援事業に関する課題整理」および「資料 2：相談支援事業の実施状況について」の説明があり、改めて各委員より現状報告及び確認・共有を行い、意見交換を行った。</p> <p>以下、現状及び課題について、各委員より意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定特定相談支援事業所が少ないのは何故か？⇒制度理解等と合わせ分析が必要。 ・障がい福祉分野は、高齢福祉分野と比較すると多様性がある。障がい福祉に携わる事業所同士の情報共有や理解が進んでいないのではないかと。

代表者会議【当日資料 2－3】

- ・相談員の不足やケースの抱え込み（共有できない）等がある現状から、課題の主な内容が、スーパービジョンや、コンサルテーションであるように感じられた。
- ・委託相談支援事業所は 3 名～5 名（時短勤務・非常勤含む）の人員体制であり、多くの相談員が委託相談と計画相談を兼務している状況。相談受理件数がとても多く（3,500 件～）常に電話が鳴っている状況で、対応が出来ていない。
- ・事業所の数が少なく人材不足である。それにより新規相談が受けられないという悪循環がある。
- ・所属法人でグループホームを運営しているため、大半がグループホームへ入居している方（援護地が他市の方も含まれている）。茅ヶ崎市の方は 10 名もいないかもしれない。援護地が他市の方は、茅ヶ崎市のセルフプラン率には関係しない。
- ・相談員 1 名で 51 名を担当しているが、（計画相談の）報酬的には、単体事業としては赤字である。制度理解の機会があると良い。
- ・相談支援専門員の資格を持っているが、計画相談に携わっていない人材がいる。
⇒サービス管理責任者を担っている方がいる。相談支援専門員はいなくても困らないが、サービス管理責任者を配置した方が運営面で収入が大きい。
- ・委託相談と計画相談員は兼務の方が多いため、役割が不明確になっているのではないかな。
- ・「セルフプラン率が低い＝相談が充実している」とは限らない。相談の質まではわかりづらい。
- ・ケアプラン一人あたり 35 人の取り決めが有るが、計画相談はない。障がいのお付き合いする年数が長い。
⇒高齢は、平均的な介護期間が約 10 年。包括は要支援、居宅は重度の方と 2 段階に分かれていて、ざっくり半分にすると 5 年前後が平均。
- ・情報提供だけではなく、付き添ったり、一緒に行ってもらいたい、そのような事をしてくれる人には資格がいらないかもしれない。親としては誰かそのような人がいて、その上に相談支援専門員みたいな人が居てくれれば良い。
- ・保護者の方々は「どこに相談したら良いかわからない」という現状がある。
- ・（支援学校では）相談が担任経由で入るので、相談担当に相談が入る時には間接的になってしまう。校内の相談体制も整っていないので整えていきたい。
- ・（児童発達支援センター）新規が受けられず、苦しい状況。安定したケースの振り分け、回転をよくした方が良いのではないかという意見がある。
- ・困っているところをピンポイントでお話を伺い、整ったところで手放す。一旦離れるかもしれないけど困ったらまた連絡くださいという事になっている。
- ・管轄している行政の考え方が大切。どのような温度感で問題意識を持っているのか。行政のスタンスとしては、セルフプランを減らした方が良いのか？
⇒セルフプランを減らしていきたいと考えているが、事業所が増えていかない。4 委託相談支援事業所に負荷がかかっているのも把握しているので業務量を減らす方向で動いている。障がい者保健福祉計画等で年度毎に事業所を増やしていく等の具体的な計画はしていない。
⇒障害児相談については、ほぼセルフプランになっている。放課後等デイサービスのサービス管理責任者が、定期的な面談など計画相談に近いサポートをしてくれているので、指定特定相談支援事業所を立ち上げた方が良い、メリットしかないと伝えている。事業所からは、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者と相談支援専門員の兼務がで

	<p>きないので人材がいないと言われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも計画相談とは何なのか？という理解がないと事業所が増えていかない。私たちも「相談」とは何か、認識が共有できていない現状がある。 <p>2. <u>相談支援の課題解決に向けた意見交換</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは障がい分野で議論を深めるべき。経営が成り立つような仕組みを学ぶことも必要。 ・障がい福祉の枠組みを考え直す時期にきている。相談は「待った無し」、枠組みが出来上がるまでにどうするのかの取り組みも必要。 ・多領域と連携を進めながら、現状は今ある資源でどのようにしたら良いのか同時並行で考えるべき。 ・地域包括支援センターは地域に根付いているので、その強みを生かしながら障がい福祉の枠組みを考えていけたら良い。 ・指定特定相談支援事業所の運営について、どのように運営したら上手くいくのか、そのような研修があれば興味を持ってくれる事業所があるかもしれない。合わせて、事業所を立ち上げた場合の（収支）シミュレーションが提供できたら良いのではないかな。 <p>○まとめ・今後の検討方向について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の意見をもとに、以下①～③に課題整理。 <ul style="list-style-type: none"> ① 相談員の不足 <ul style="list-style-type: none"> →指定特定相談支援事業所を増やす。潜在的相談支援専門員の掘り起こし。 ② 相談支援体制構築に向けた検討。 <ul style="list-style-type: none"> →他領域との連携を想定し、「2030 年プロジェクト」を見据えた体制整備。 ③ 人材育成。 <ul style="list-style-type: none"> →相談員養成確保・質の向上。相談員の孤立を防ぐ体制作り等。 ・次回以降は、上記①～③の課題に対して具体的にどのように取り組むか検討を進める。 <p>3. <u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内「かえってきた！第 15 回キラキラちゃんぷる音楽祭」 ・第 3 回 相談支援部会 開催日時：令和 6 年 12 月 2 日（月）10：00～12：00 会場：茅ヶ崎市役所分庁舎 5 階コミュニティホール AB 会議室
課 題 懸 案 事 項	<p>相談支援事業所の現状と課題についての把握・分析を深め共通認識を継続して図っていく必要がある。</p> <p>茅ヶ崎市の相談支援体制を他領域との連携を念頭に、どういった体制であれば相談が必要な人に相談支援を届けられるかを検討していく必要がある。</p>